



# Comparison of duplex-derived parameters in patients with chronic venous insufficiency with special reference to early symptoms

著者名	越智 正和
発行年	2020-01-17
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/00032646">http://hdl.handle.net/10470/00032646</a>

## 主論文の要旨

Comparison of duplex-derived parameters in patients with chronic venous insufficiency with special reference to early symptoms  
(デュプレックス・スキャンを用いた慢性静脈不全の定量的評価と重症度の相関関係ー特に軽症例の特徴についてー)

東京女子医科大学形成外科学教室

(指導：櫻井裕之教授)

越智 正和

Italian Journal of Vascular and Endovascular Surgery 雑誌 第 26 巻 第 1 号 33 頁～38 頁 (2019 年 3 月発行) に掲載

### 【要 旨】

今回われわれは一次性静脈不全症例 (PVI) 2234 肢を対象に、CEAP 臨床分類に従って毛細血管拡張・網状静脈群 (C1)、下肢静脈瘤で皮膚症状を伴わない群 (C2-3)、下肢静脈瘤で皮膚症状を伴う群 (C4-6) の 3 群に分類し、デュプレックス・スキャンを用いて各種パラメータを測定することで重症度との相関を比較検討し、特に軽症例の特徴についても検討した。

表在静脈の静脈径、**最大逆流速度**、**逆流量**が PVI の重症度に関する指標になると考えられた。また、軽症例である C1 では表在静脈不全が多く、重症度が上がるにしたがって穿通枝不全と深部静脈不全が増える傾向にあり、静脈径、**最大逆流速度**および**逆流量**が他の群と比較し有意に低値であることが判明した。